

| | | | | | | | | |
|---|--|------|------|---|-------------------|----------|------------|----|
| 授業科目 | 発達臨床心理学 | | | | 単位 | 2 | | |
| 履 修 | 選択 | 関連資格 | 保育士 | | ナンバリング | WE31408J | | |
| 開講年次 | 3 | 開講時期 | 後期 | 該当DP | DP1-2 DP2-1 DP3-1 | | | |
| 担当教員 | 水貝 洵子 | | | | | | | |
| 授業概要 | <p>対人援助場面において、自閉症スペクトラム障害をはじめとする発達障害児者への支援のニーズが高まっている。本講義では、障害に関する医学的理解や診断的理解にとどまらず、当事者がライフサイクルごとにどのような体験をしているかといった心理社会的視点で障害特性への理解を深めていく。</p> <p>さらに、乳幼児期から思春期までの発達障害児者への心理支援の方法として「ソーシャルストーリー」を取り上げる。支援方法の概要について解説を行うとともに、対象児者に応じた目的や配慮点についても検討する。心理支援の方法理解を通じ、障害児者への支援において大切な姿勢や視点について学ぶ。</p> | | | | | | | |
| 学生が達成すべき行動目標 | <p>1. 自閉症スペクトラム障害をはじめとする発達障害児者のライフサイクルごとにみた悩みや課題、強みについて説明できる。</p> <p>2. 発達障害児者を対象とした「ソーシャルストーリー」の概要や目的について説明できる。</p> | | | | | | | |
| 達成度評価 | | | | | | | | |
| 評価と評価割合／ 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 発表(口頭、プレゼンテーション) | レポート外の提出物 | その他 | 合計 | 備考 |
| 総合評価割合 | 70 | 0 | 0 | 0 | 30 | 0 | 100 | |
| 知識・理解 (DP1-1) | | | | | | | | |
| 知識・理解 (DP1-2) | 40 | | | | | | 40 | |
| 知識・理解 (DP1-3) | | | | | | | | |
| 知識・理解 (DP1-4) | | | | | | | | |
| 思考・判断 (DP2-1) | 30 | | | | | | 30 | |
| 思考・判断 (DP2-2) | | | | | | | | |
| 関心・意欲 (DP3-1) | | | | | 30 | | 30 | |
| 関心・意欲 (DP3-2) | | | | | | | | |
| 態度(DP4-1) | | | | | | | | |
| 態度(DP4-2) | | | | | | | | |
| 態度 (DP4-3) | | | | | | | | |
| 技能・表現 (DP5-1) | | | | | | | | |
| 技能・表現 (DP5-2) | | | | | | | | |
| 技能・表現 (DP5-3) | | | | | | | | |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | |
| 理想的レベル | | | | 標準的なレベル | | | | |
| <p>自閉症スペクトラム障害をはじめとする発達障害児者のライフサイクルごとにみた悩みや課題、強みについて適切に説明できる。</p> <p>心理支援の方法である「ソーシャルストーリー」の概要について適切に説明できる。</p> <p>本講義での学習内容を通じ、発達障害児者への適切な支援の在り方について考え始めることができる。</p> | | | | <p>自閉症スペクトラム障害をはじめとする発達障害児者のライフサイクルごとにみた悩みや課題、強みについて説明できる。</p> <p>心理支援の方法である「ソーシャルストーリー」の概要について説明できる。</p> | | | | |
| 授業計画 | | | | | | | | |
| 進行 | テーマ・講義内容 | | | 授業の運営方法 | 学習課題(予習・復習) | | 予習・復習時間(分) | |

| | | | | |
|----|---|----------------|---------|----|
| 1 | テーマ・講義内容:オリエンテーション 本講義のオリエンテーションを行う。 | 講義 | 該当箇所の復習 | 30 |
| 2 | テーマ:ライフサイクルごとにみた発達障害児者の状態像の理解1 当事者1の手記やその手記を分析対象とした研究を読み、発達障害の診断基準と照らし合わせながら、その当事者がどのような体験をしているのか理解を深めていく。 | 講義 ディスカッション | 該当箇所の復習 | 30 |
| 3 | テーマ:ライフサイクルごとにみた発達障害児者の状態像の理解2 当事者1の手記から各発達段階における体験を取り出し、KJ法的手法を用いた分析を行う。なおグループによって作業を進める。 | 講義 ディスカッション | 該当箇所の復習 | 30 |
| 4 | テーマ:ライフサイクルごとにみた発達障害児者の状態像の理解3 当事者1の手記から各発達段階における体験を取り出し、KJ法的手法を用いた分析を行う。なおグループによって作業を進める。完成させた分析シートを見て、当事者1の手記から学んだことについて振り返りを行う。 | 講義 ディスカッション | 該当箇所の復習 | 30 |
| 5 | テーマ:ライフサイクルごとにみた発達障害児者の状態像の理解4 当事者2の手記やその手記を分析対象とした研究を読み、発達障害の診断基準と照らし合わせながら、その当事者がどのような体験をしているのか理解を深めていく。 | 講義 ディスカッション | 該当箇所の復習 | 30 |
| 6 | テーマ:ライフサイクルごとにみた発達障害児者の状態像の理解5 当事者2の手記から各発達段階における体験を取り出し、KJ法的手法を用いた分析を行う。なおグループによって作業を進める。 | 講義 ディスカッション | 該当箇所の復習 | 30 |
| 7 | テーマ:ライフサイクルごとにみた発達障害児者の状態像の理解6 当事者2の手記から各発達段階における体験を取り出し、KJ法的手法を用いた分析を行う。なおグループによって作業を進める。完成させた分析シートを見て、当事者2の手記から学んだことについて振り返りを行う。 | 講義 ディスカッション | 該当箇所の復習 | 30 |
| 8 | テーマ:ライフサイクルごとにみた発達障害児者の状態像の理解7 当事者3の手記やその手記を分析対象とした研究を読み、発達障害の診断基準と照らし合わせながら、その当事者がどのような体験をしているのか理解を深めていく。 | 講義 ディスカッション | 該当箇所の復習 | 30 |
| 9 | テーマ:ライフサイクルごとにみた発達障害児者の状態像の理解8 当事者3の手記から各発達段階における体験を取り出し、KJ法的手法を用いた分析を行う。なおグループによって作業を進める。 | 講義 ディスカッション | 該当箇所の復習 | 30 |
| 10 | テーマ:ライフサイクルごとにみた発達障害児者の状態像の理解9 当事者3の手記から各発達段階における体験を取り出し、KJ法的手法を用いた分析を行う。なおグループによって作業を進める。完成させた分析シートを見 | 講義 ディスカッション | 該当箇所の復習 | 30 |

| | | | | |
|---------------|--|----------------------|---------|----|
| | て、当事者3の手記から学んだことについて振り返りを行う。 | | | |
| 11 | テーマ:ソーシャルストーリー1 幼児期の発達障害児を対象としたソーシャルストーリーの概要やねらい、留意点を解説する。 適宜ワークを実施する。 | 講義 ディスカッション 実習 | 該当箇所の復習 | 30 |
| 12 | テーマ:ソーシャルストーリーズ2 ソーシャルストーリーの実例を紹介しながら、ソーシャルストーリーの理解を深めていく。適宜ワークを実施する。 | 講義 ディスカッション 実習 | 該当箇所の復習 | 30 |
| 13 | テーマ:ソーシャルストーリー3 ソーシャルストーリーの実例を紹介しながら、ソーシャルストーリーの理解を深めていく。適宜ワークを実施する。 | 講義 ディスカッション 実習 | 該当箇所の復習 | 30 |
| 14 | テーマ:思春期における心理支援 思春期の発達障害者への支援としてグループセラピーを取り上げ事例の紹介や、ワークの実施を行う。 | 講義 実習 ディスカッション | 該当箇所の復習 | 30 |
| 15 | テーマ:まとめ これまでの授業内容について振り返る。 | 講義 | 該当箇所の復習 | |
| 16 | | | | |
| 17 | | | | |
| 18 | | | | |
| 19 | | | | |
| 20 | | | | |
| 21 | | | | |
| 22 | | | | |
| 23 | | | | |
| 24 | | | | |
| 25 | | | | |
| 26 | | | | |
| 27 | | | | |
| 28 | | | | |
| 29 | | | | |
| 30 | | | | |
| 理解に必要な予備知識や技能 | 発達障害に関する診断基準等の基礎知識を有していることが望ましい。 | | | |
| テキスト | 授業中に適宜資料を配布する。 | | | |

| | |
|--------------------------------|--|
| 参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介 | 『発達障碍の理解と対応 心理臨床の視点から』田中千穂子(編著)金子書房 |
| 授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ | 障害者を取り巻く環境や支援, 制度について関心を持ち, ニュースや書籍などに触れるようにしてください。また, ニュースや本の知識に触れるだけでなく, 当事者にとってはどのような意味をもつのか考える姿勢をもってもらいたいと思います。 |
| 達成度評価に関するコメント/課題に対するフィードバックの方法 | 試験の詳細は授業中に指示する。 なお、レポート以外の提出物は、授業毎の質問感想シートやワークシート等のことである。 質問感想シートやワークシートを通じて出された授業内容に関する質問やコメントについては、適宜授業内で紹介し回答を示す。 |